

支援の必要な子どもの 正しい理解と支援

～特性をふまえた居場所づくり～

京都ノートルダム女子大学
心理臨床センター長
東大医学部客員研究員

藤川 洋子

1

不適応行動をどのように捉えるか

- ① 生物的要因
生物・医学レベルの問題・・・**発達障害**・器質障害
- ② 心理的要因
心理的外傷体験
いじめ、虐待による感じ方の変化・・・情緒障害
- ③ 社会・文化的要因
家族、学校、地域の人間関係

2

- ① 生物・医学的要因
- ② 心理的要因
- ③ 社会・文化的要因

従来は、②と③から説明されることが多かった



①についての科学的解明が進み、「わかりにくい」「奇異」とされてきた触法行動・不適応行動に**新たな視点**が加わる

3

発達障害という視点**6.3%ショック!**

文科省調査 2003

脳の働きに原因

…「生まれつき」で一生続くが、環境次第で障害が目立たなくなり、適応的になる

- ① 知的障害
 - ② 学習障害(LD) ……4.5%
 - ③ 注意欠陥・多動性障害(ADHD) ……2.5%
 - ④ 広汎性発達障害(PDD) ……0.8%
- ＝自閉症スペクトラム障害(アスペルガー障害を含む)

→ 発達障害者支援法²⁰⁰⁵特別支援教育²⁰⁰⁷

4

ADHD(注意欠陥・多動性障害)について

- 特徴:①忘れ物が多い
②物をなくしやすい
③落ち着きがない
④物事を順序立てて行うことが難しい
⑤衝動的
⑥順番を待つことが難しい

↓
(理由)前頭葉の働きが不活発
ドーパミンの働きに偏りがある

↓
その行動によって**社会生活(二カ所以上)に支障をきたし、本人に困難が生じる場合に診断する** → 薬物療法も

5

PDD:アスペルガー障害について

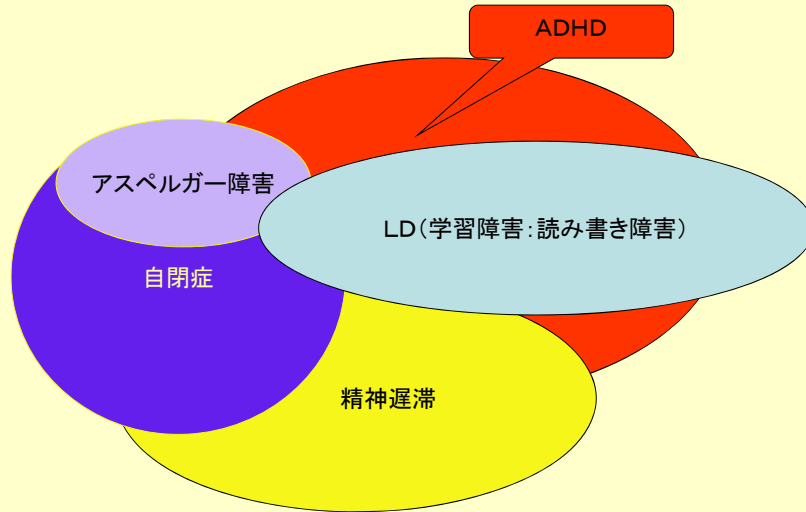
- 特徴:①社会性の欠如(常識がなかなか身につかない)
②コミュニケーション能力の欠如=字義どおり性
③興味の偏りが強い=想像力の欠如
(学校生活に支障がないことも多い)

知的な遅れがない…**ちょっと変わった子?**

↓
(社会に出ると)
人間関係がうまくいかない
社会人としてあまりふさわしくない行動をとってしまう
(相談機関でも誤診される…統合失調症?気分障害?)

6

発達障害の関係

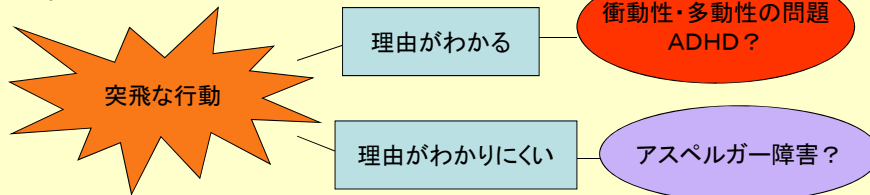


7

早期発見・早期介入のコツ

どういう困難を抱えているか

1 見分け方



2 理解

わざとしているのではない(脳の特徴に原因)。

養育者のせいではない(親御さんが努力していても躰が難しい。)

アスペルガー障害、高機能自閉症は特性に合った対応を！

8

事例1:ほかの子と遊べない

ひとりであるのが好き
マイペースで遊ぶ
独特な遊びに熱中する

無理やりほかの子どもとの
遊びに誘う
「仲良く遊ぼうね」と言う

無理

こっち!

興味のあるもので関わる
ペースを尊重する

9

事例2:かんしゃく(パニック)を起こす

静かな場所に連れて行き、落ち着くまで見守る
暴れたときに危険なものを片付ける

その場ですぐに説得しようとする、なだめる
大きな声でしかりつける

無理!

原因を探る

好きなことを止められた?
音の刺激に耐えられない
予定変更がわからず混乱

予告

次にすることをわかるように伝える
絵カードを使う
時計を使って待つ見通しを

10

アスペルガー障害の大人の特徴(1)

一何に困るかー

- 1 言葉のウラが読めない。たとえ話や皮肉が通じない…**想像力が働かない。大脳辺縁系+前頭葉**
- 2 物事を全体として捉えることが難しい…**細部に集中するあまり全体像をとらえるのが不得意。**
- 3 作業の「同時進行」が必要な仕事は難しい。
Ex:「余分なものは抜いて、必要な書類を年月順にファイルして」などという複雑な指示では要点を見失う…**複数の同時処理が困難。**

11

特徴(2)

- 4 対人交渉が重要な仕事は苦手…記憶することや反復処理を続けることには秀でているが、「**臨機応変、TPOに合わせる**」ことができない。
- 5 予想外の仕事や予定が入るととまどってしまう…**応用力に欠ける。変動するものには不安を覚える。ミラーニューロンの働き?**
- 6 表情認知ができないから人間関係がギクシャクする…**アイコンタクトができない。感情の読み取りが困難…動きの解釈が難しい。側頭葉に障害?**



本人に悪気はないのに嫌われたり非難されたりする…**「うつ病」や「不安障害」などの二次障害を引き起こす。**

12

発達障害と本人、親の傷つき

PDD

「場違い」「常識はずれ」
なことをして、イジメの
対象に

ADHD

「落ち着きがない」「不注意」
「何度も同じ間違いをする」
ため叱られてばかり



親のしつけ不足、愛情不足と決め付けられやすい



無力感、対人不信感が強まる(本人、親とも)

13

+

生来の不器用さ、バランスの悪さ

+

周囲の無理解(無気力)による孤立

→刺激に対して過剰に反応→さまざまな二次障害

奇異な非行(PDD) 衝動的な非行(ADHD)

引きこもり 不登校 子による親の支配 家庭内暴力

*こうしたメカニズムを正確に理解することにより、本人、親は
「分かってもらえた」「救われた」という思いを持つ

14

適応への手順(子どもの場合)

- 1 安心できる「居場所」を提供する
気分が変動しやすい
言葉の意味理解が困難
変化に対応できない } という特徴を理解する
- 2 言葉を育てる
よく聞いて、特徴をつかむ(よい聞き手に)
感情に名前をつける(うらやましいのね。悲しいね)
よい言葉を教える
- 3 視覚的な手がかりを活用し、予測情報、全体像を与える
- 4 周囲の理解、環境面の整備(シンプルでわかりやすく)

15

適応への手順(青少年・大人の場合)

- 1 二次障害を治療する(精神科)
気分が変動しやすい
睡眠がうまく取れない
頻繁なフラッシュバックに悩まされる etc
- 2 適切な社会的行動を教えてあげる
指示はわかりやすく!
否定の命令は避ける!
×「走るな」「横向かないで」
×「そんな声出さないで」
×「何回言ったらわかるの」
- 3 視覚的な手がかりを活用し、予測情報、全体像を与える
- 4 周囲の理解、環境面の整備(シンプルでわかりやすく)
が最重要

16

逸脱行動に対する処遇の実際

- ・機関の持つ枠組を利用して、行動療法的に関与
- ・分かりやすい約束とそのチェック
- ・不安を与えず、褒美を活用
- ・問題行動に対する“受容と共感”は、失敗する
「認知の誤りに対処する」という見方を！
- ・怒り発作、パニックは、無視(逃げる)→対策を！

17

処遇(適応指導)のポイント

できるだけ、年齢が低いうちに

- 1 非行と処分に関する正確な知識を与える
- 2 環境側(親、教師)が障害を理解し、連携する
- 3 可能な限り、本人にも障害を告知
- 4 程度や併存症に応じて医療機関と連携する

18

終わりに

- 1 本人たちの「**分からなさ**」を知る
……支援が不可欠
- 2 「(いい加減な)受容と共感」では失敗する
→**発達支援**という**方向性**が必要！
- 3 その可能性を伝えるときには、「障害が見つかって良かった、楽になった」と感じてもらえるように最大限、配慮する
- 4 非行に対しては、特別扱いや臨機応変の扱いをせずに、**一貫性のある毅然とした対応**を
- 5 ひとりで抱え込まずに、チームプレーが肝心

19

ご清聴ありがとうございました

- 拙著 **非行と広汎性発達障害(日本評論社)2010**
非行臨床の現場からとらえた**子どもの成長と自律(明治図書)2009**
発達障害と非行(金剛出版)2008
なぜ特別支援教育か(日本標準)2007
春のはじまる朝(東京書籍)2007
私が出会った少年たち(日本教育新聞社)2005
少年犯罪の深層(ちくま新書)2005
子どもの面接ガイドブック(監訳:日本評論社)2003
非行は語る一家裁調査官の事例ファイル(新潮選書)2002
わたしは家裁調査官(日本評論社)1996

20

**LD等の発達障害のある子どもに焦点を
あてた学びと生活の集団づくり
～一人一人が輝き、響き合うために～**

**藍野大学
若宮英司**

2011 Aug 8 国立京都国際会館

学習困難を訴えてくる子ども

経過の聴取、検査 ◻ 診断、介入方法の相談

学習する環境

本人の学習意欲・姿勢

知的水準

視力、聴力などの感覚

注意集中

協調運動・眼球運動

学習障害など特異的な認知障害

学習障害に対する対応

症状は脳機能由来と認識する

苦手技能を持ったままの状態
適応状況を改善させる

苦手な技能

苦手技能の改善・向上

認知機能の分析が必須
個別の対応が必要

通常クラスでの対応

目標: 学習、学校に対する苦手意識をもたせない
知識、技能を習得させる

困難が際立つことがないように工夫

別の方法で学べることも教える

学習負荷を軽減する

苦手技能向上の場を探し、連携する

学習困難を訴えてくる子ども

経過の聴取、検査 ⇨ 診断、介入方法の相談

学習する環境

本人の学習意欲・姿勢

知的水準

視力、聴力などの感覚

注意集中

協調運動・眼球運動

学習障害など特異的な認知障害

学校の仕組みにのっていく..

学習する姿勢の獲得

学校って何？ 先生って何？

学校のルールに従う ⇨ 効率よい学び

教室での行動、自由時間の過ごし方

宿題、提出物の遵守

時間割に則る

失敗してもめげない

誤りの指摘を受け入れる



学校の仕組みに乗る

発達障害の子どもが苦手とするのは何故？

就学後、子どもの集団で過ごすうち..

時間を意識して過ごす

感情がある程度制御できる

正しい、〇、勝ちにこだわり過ぎない

相手や周囲の思惑、状況、物事の流を感じる

周りと同じような／暗に周囲が求めるような
基準や行動規範を身につける

学校の仕組みに乗る

発達障害の子どもが苦手とするのは何故？

苦手技能を受容する

時間を意識して過ごす

行動を変容させる

感情がある程度制御できる

正しい、〇、勝ちにこだわり過ぎない

相手や周囲の思惑、状況、物事の流を感じる

継続的に受容し続ける、途中で気を抜かない

「一人一人が輝き、互いに響き合うために」

～親の立場から～



平成23年 8月 8日
くまがい まゆみ

自己紹介



小学5年



小学2年



かたよりのある
正反対の兄弟

生育歴

☆お兄ちゃん☆

- ・首のすわりが遅い
- ・言葉は5歳まで出ない
- ・3歳から療育機関
- ・集団で遊べない
- ・1歳半でパズル

☆弟☆

- ・切迫早産
- ・早くから流暢に喋る
- ・感覚
- ・こだわり
- ・一見問題ない・・・

現在

★お兄ちゃん★

- ・4年から支援学級
- ・少年野球に入部
- ・まわりとの差に気付く
- ・思春期
- ・着実に成長

★ 弟 ★

- ・小学校という環境
- ・「ルール」
- ・読み書きの課題
- ・忘れる&記憶力
- ・心も体も多動

子育てって・・・



親子なのに・・・

交わらないココロ

合わない視線

つなげない手

まず、わかってください



我が子に

体も心も

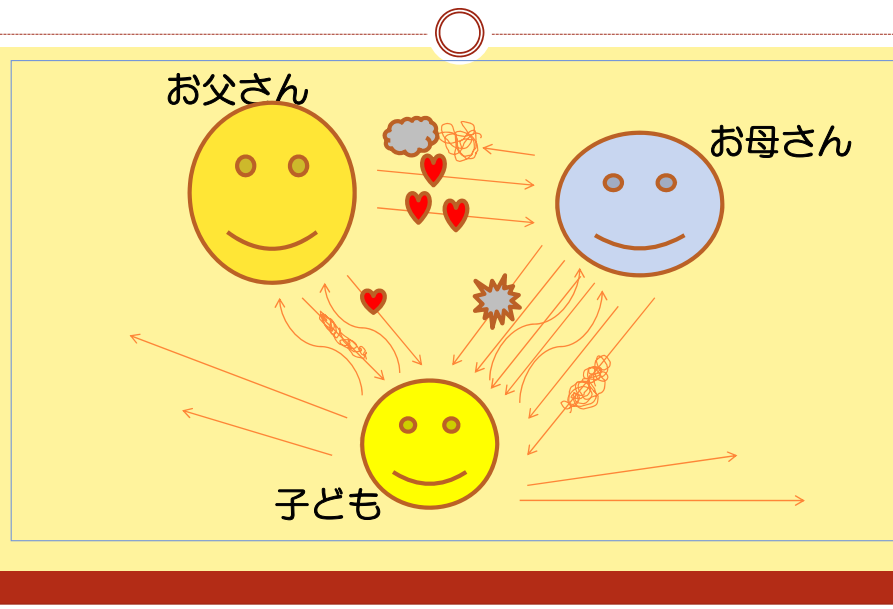
寄り添いあうことが

難しい

という

親子の関係

孤独の始まり



求め、さまよう

☆トレーニング

☆療法

☆教材

☆病院

☆塾

☆先生

☆信仰

ダメな親ではない

簡単なことから

☆学校の持ち物
決められたことは守る
忘れ物はさせない

☆身だしなみ
清潔感とおしゃれ
流行を取り入れる
習慣にする

☆習い事は最低限
時間に追われない
家庭での時間を大切に

☆「待つ」
信じて待とう
理解も成長も発達も
追いかけない

診断名にこだわらない

☆特性

☆出来ること

☆弱いところ

☆つまずき

☆親が理解すること、出来る支援

第三者へ



名前よりも

特性と関わり方を伝える
今までのプラス面マイナス面
具体的に

本人の理解、居場所へつながる

まっ いいか



ぐうたら母

いつまでも「こども」

喜怒哀楽

サザエさん&のびたのママ

視点



こだわりとわがまま

甘やかすと甘えさせる

手をだすと手をかける

躰とルール

温度差



- 地域
- 学校と学校
- 保護者と学校
- 保護者と保護者
- 指導する側

「お疲れさま」「ありがとう」



カリスマ：charisma

子どもにとって
保護者にとって
先生にとって

カリスマティック・アダルト

お母さん、一人じゃないよ



- 当たり前
 - 学校でも家でも孤立しがち
 - イライラしては反省
 - 「自分だけ」と思ってしまう
 - 「今、誰か聞いて」この思い
 - しなくてはならない家事や仕事

「今」だけではない



- ☆日々のトラブルや課題にとらわれがち・・・
- ☆「私がいないとダメ」 → 「離れても大丈夫」
- ☆社会や集団に慣れる → 自立・自律に繋がる
- ☆親も子も人生を通した目標をもつ

丸投げしない



☆療育

☆残る

☆甘えない・あきらめない

☆環境を整える

少しずつ



☆小さい頃から慣らす
気付いたらやってみよう
☆見通しをもたせる

☆毎日の生活の中で、より柔軟に人や社会に対応
できることを積み重ねていく

☆怖がらずに外へ出そう

守る／護られる



集団・社会の中で
失敗・ずれる経験を恐れず

同時に、ていねいに
積み重ねと対応を

社会の中での適応力をつける
「子を放つ」勇気を

少年野球 1



「こんな子は初めて」

「レギュラーは望まれても・・・」

「野球を上手にならんでいい」

「走るのを速くさせてやる」

少年野球2



わずか3カ月で1秒縮まる

穿けなくなったズボン

お腹についた筋肉

変わった表情

1歩でる勇氣

少年野球3



だけど
成長した「感情」「認知力」

「自分だけ」という差への気づき

「自分のペース」で
いいじゃない

感じたことは・・・



どう、さわっていいのか
どう、関わっていいのか
わからない

これは、差別されたり
いじめられたりしているのではない

もっと、さわって



もっと
さわって

心も体も

これが、理解への一歩

未来づくり教育フォーラム

第5分科会

LD等の発達障害のある子どもに焦点をあてた 学びと生活の集団づくり

京都教育大学
前京都市教育相談総合センター所長
桶谷 守

教育の中で、なぜ集団づくりが必要なのか？

集団とは— 2人以上である程度組織化された人間の集まりである。厳密には共通の目的を持ち、目的と目標を共有し、目的と目標達成の為に互助しようと努力し、役割の分担が集団の中に定め、振る舞い方の一定の基準が存在する。 ([Wikipedia](#))

群衆 ~ ただ、人が集まっている

集団 ~ 最低限のマナーと行動様式を共有

集団には個人の気取った単独行動を規範、約束、慣習などによって抑制し、一定の枠の中にメンバーの行動を同質化しようとする働きがある

集団づくりとは ~ 一人ひとり違った個性や生活をもった子どもたちを、
ていねいに“つないでいく”こと。

集団づくりの目標 ~ 子どもたちに、集団の中での他者とのかかわりを通じて自分という存在に自信をもち、**自己肯定感**を育むこと。

また、人間への信頼感を育て、「友だちが好き」「友だちとかかわることが楽しい」と言えるような、**人とかかわる力、人とつながる力を身につけさせる。**



気になる子どもの意識と姿

- ★規範意識の欠如、低下
- ★自己中心的にしか考えられず、責任を他に転嫁する
- ★コミュニケーションの不足から、人のかかわりが苦手
- ★傷つきやすい反面、人を傷つけることに鈍感
- ★目的意識が持てないことや存在感を見出せないでいる。また、短絡的に苦痛と感じられることから逃げようとする
- ★基本的な生活習慣、集団生活を営み上での必要なきまりやルールが十分身につけていない
- ★自分本位で忍耐力がなく、すぐに「むかつく」状態になり、僅かなきっかけで「キレ」たりすることがある
- ★自分に自信がもてず、考えや行動の判断基準を周囲の意向に求める
- ★「どうせ俺(わたし)なんか、あかんねん」意識が払拭できず、自己肯定感や自尊感情がそだっていない
- ★人間関係でトラブルが起こったとき、自分の感情を押し殺し相手に合わせてしまうか、相手を攻撃するしかできない
- ★「公」と「私」の場面を分けての行動ができず、「公」の場面にどんどん「私」を持ち込んでいる

変化している子どもたち

- ① 人間関係の弱さ
 - ② 自己肯定感がもてない
 - ③ 感情のコントロールができない
 - ④ 共感性と信頼感の低下
 - ⑤ 生活実感の弱まり
 - ⑥ 生命尊重の態度や責任感の低下。
-
- ◎ 集団の中で人とうまく関わりがもてない子どもの増加
 - ◎ 人との距離感をつかむことが難しい
 - ◎ 「身内 ⇄ 世間 ⇄ 赤の他人」（世間がなくなり、身内か他人か）
世間＝人が集まり、生活している場。自分がそこで日常生活を送っている社会。世の中。人々との交わり。また、その交わりの範囲。
社会＝人間の共同生活の総称。広く、人間の集団としての営みや組織的な営みをいう。ある共通項によってくられ、他から区別される人々の集まり。

★「人にとって、一番、悲しく、寂しいことは、自分が必要とされていないことを感じることである」



すべての児童生徒に、自分の存在意義、存在価値を感じられるように人との温かい触れ合いを感じられる集団を創って行くことが大切である

（特別支援教育指導資料第23集）

人は人との関わりの中で、つまり温かな集団の中で成長する。

また、集団がしっかりと形成されないと、個別の支援もうまくいかない

- ◇ 学校教育は、集団での活動や生活を基本とするものであり、集団の状態が児童生徒の健全な育成に深く関わっている。
学級集団の状態の影響を受けやすいと言われている特別な支援を必要とする児童生徒は、学級が安心できない状態であると、二次的な障がいを引き起こす可能性があると考えられる。
児童生徒の健全な育成のために、安心して過ごせる集団づくりを実現することはとても重要なことである。日頃から児童生徒一人一人に対して「あなたは大切な存在である」というメッセージを伝え続けていくことが、安心して過ごせる集団づくりの実現を目指す上での基盤となる。

マズローの欲求階層説



- ← 自己実現の欲求
- ← 自己の尊厳と承認の欲求
- ← 所属と愛情の欲求
- ← 安全と安心の欲求
- ← 生理的・基本的欲求

望ましい学級(集団)
「心の居場所」

安心できる場所

- ①環境が整備されている
- ②自分を肯定、理解してくれる人がいる
- ③きまりやルールがあり、守られている

- ①楽しいことがある
- ②自分の役割がある
- ③自分の努力が認められる
- ④他の人を肯定・理解することができる

支援の必要な子どもの正しい理解のポイント

正確な情報を収集し、多角的な分析と共通認識のもと、指導の在り方を考える

- ① 家庭での様子や家族構成
- ② 生育歴(幼児期の多動の有無や友だち関係)
- ③ 身体状況(大きな病気やけが、既往症、発達、運動能力など)
- ④ 能力特性(教科による得意不得意など)
- ⑤ 行動特性(注意・集中力や衝動性、こだわり、行動のペースなど)
- ⑥ 興味や関心(指導に生かせるもの)

子どもの気持ち・願い

子どもの気持ち・願いをつかむ

子どもの日々の様子・表情・言動から、子どもの気持ちを正確に把握することが、子ども理解の第一歩です。子どもの気持ちを理解することなく働きかけても、一方通行になったり、時には逆効果になったりする場合があります。

子どものサインに気付く

子どものさまざまな言動から子どもが発しているサインに気付きましょう。そこには、切なる思いや深い悩み、厳しい生活や集団の矛盾等が含まれていることがあります。それをキャッチすることができる感性を磨きましょう。

学級集団からのサインに敏感になるために

- ①休み時間に固定化した少人数のグループに分かれる傾向がある。
- ②学校の行き帰りや休み時間等にいつも一人で過ごしている子がいる。
- ③班活動や集団行動のときなどに一人でいる子がいる。
- ④学級の子どもたちが特定の子どもの失敗や規則違反に敏感に反応する。
- ⑤昼食時などの子どもたちの会話に、度を過ぎたふざげや、からかうような笑いが頻繁にみられる。
- ⑥ニックネームやあだ名が偏って使用されている。
- ⑦子どもどうしの会話で、言葉がきつくなってきている。
- ⑧持ち物等に流行が見られたり、持ち物の自慢をしたりする子どもが増えている。
- ⑨まじめに取り組むことを冷やかすような雰囲気生まれている。
- ⑩授業中に発表しようとする子が減った。
- ⑪学校のルール等を守らない雰囲気ができている。
- ⑫教職員に距離を置く子どもが増えた。

(『いじめ対応プログラムⅡ』大阪府教育委員会 より)

子どもを生活背景から見つめる

子どもの生きてきた生活背景を含めて理解する

子どもの暮らしを深く見つけ、子どもの生育史（生い立ち）も把握するようにしましょう。

子どもの悩み・本音をつかむ

子どもは、自分自身のこと・勉強・進路についてや、友達関係・家庭のこと等、さまざまな悩みをもちながら生きています。子どもの様々な言動に込められている意味を理解する姿勢を身に付けましょう。

多様性を理解する

子どもは一人一人違い、さまざまな側面をもっています。子どもの背景にある多様性（障がいの程度・保護者の仕事・家庭・地域での生活等）を理解し、さまざまな特性をもった個性的な存在として丸ごと理解するよう努めましょう。

ちょっとした変化を見逃さない

虐待や、不登校のサインが表れていないか、子どもの変化に敏感になりましょう。

課題を抱える子どもの理解

本音を見抜く

子どもの表面的な行動や発言と、本音は違うことがあります。「ほっといて!」「先生なんかきらい」という言葉は、「かまってほし」「好きになってほしい」という気持ちの裏返しとして受けとめることができます。

子どもを信じる

子どもに対してきめつけたり、あきらめたりしないこと、子どものもっている人間性を信じるのが大切です。子どもから信頼されるには、まず子どもを信頼することが肝心です。

「よさ」がわかりにくい子どもこそ、「よさ」を見つめること

「よさ」がわかりにくい子どもがいます。わざと悪態をついたり、いけないことをしてみたりといった「試し行動」をして、大人（教職員）はどこまで自分のことを考えてくれるのか、本気でかかわってくれるのか、を探っているのです。そうした行動の裏にある「寂しい」「認められたい」という本音を理解することが大切です。

「なぜか?」「本当は?」にこだわる

一見「やんちゃ」な行動をしている子どもも、実はいっぱい苦しんでいるのです。なぜそういう言動をするのか、本当の願いは何か、子どもの心を理解しようとするすることで、子どもとつながっていくことができます。

受容・傾聴・共感の姿勢

受容・傾聴・共感の姿勢を見せる

子どもはいつも受け入れて欲しいと思っています。すべては受けとめることから始まります。自分を否定されてしまつては、心を開くことができません。そして、子どもの言葉に心を傾けて聴きます。反応を示しながら聴くことを、積極的な傾聴（アクティブリスニング）と言います。共感とは、子どもの感情に寄り添い理解することです。こうした姿勢を通じて、「あなたの存在を大切に思っている」というメッセージが伝わり、信頼が生まれます。

子どもの心の扉を開き、信頼関係をつくる

話を聴くということは、一人の人間としての子どもを尊重し、信頼の関係をつくるということです。子ども・人間を好きになること、存在をあるがままに受けとめることが大切です。

自己肯定感をはぐくむ

仲間や教職員の肯定的・共感的な態度と理解

ありのままの自分を語り合わせ、共感的に理解し合う人間関係をはぐくみます。他の子どもとのかかわりの中で居場所を実感させることが大切です。

自己決定できる場の設定とその評価

子ども自身が、責任をもって選択・決定し実行するという経験が重要です。そして、その結果ではなく過程についてプラスの評価をすることが大切です。

指導の基本姿勢

思いをもって、子どもに寄り添う

教育に対する責任感や信念をもって子どもに思いを語り、そして、子どもに寄り添う姿勢を貫くことが大切です。また子どもに毅然とした指導を心がけることも大切です。

★教職員の思いを伝える

子どもへの指導の第一歩は、教職員としての思いを語ることから始まります。そのためには、自らの子ども観・人間観を問い直し、教育に対する責任感、信念をもつ必要性があります。子どもに熱い思い（ハート）をもって接することが、子どもから「好かれる」だけでなく、人生の先輩として生きていくモデルとして、信頼され慕われる教職員となることにつながります。

★子どもの心に響く指導を

子どもに寄り添う姿勢を貫き、子どもどうしを信頼の糸でつないでいくことも重要です。かけがえのない存在として子どもを理解し、また仲間や保護者への思いなど内面を把握した上で、子どもの心に響く指導を心がけます。その中で子どもたちは本当の“人間の素晴らしさ”に気付いていきます。なお、指導と併せて、受容・傾聴・共感の姿勢とスキルをもつことが必要です。

★わかりやすい、ぶれない指導

子ども自身が、今何で頑張るべきか、逃げていないかなど、振り返ることができるような指導をしましょう。わかりやすく、ぶれない、善悪を明確にした指導をすることで、信頼を基盤にした関係をつくることができます。子どもへの温かい愛情があるからこそ、時には子どもが見せる利己的な言動にとらわれない毅然とした指導ができます。また、子どもの実態に応じたバランスの良い指導を心がけることも大切です。

★指導をふり返る

子どもをきめつけたり、偏見にとらわれていないか、感情任せになっていなかったか、一人一人を大切にしていた指導ができていないか、また指導が子どもの心に届いているか、常に教職員の仲間と一緒に振り返ることが大切です。

安心と規律

安心して学べるクラスには規律がある

子どもが安心して学ぶ環境を確保する必要があり、物理的環境と同時に、集団生活がスムーズにできる規律が大切です。

規律ある雰囲気「意味のあるルール」とする

集団生活を送る上で必要なルールがあることを子どもたちに気付かせることが大切です。

自己実現をめざすルールをつくる

お互いの自己実現をめざすという視点で子どもたち自身がルールを作っていくことを大切にしましょう。そして、子どもたちが自発的に行動し、守っていくように働きかけましょう。

★居場所があり居心地のいいクラス・学校づくりをめざす

事件や事故がよく起きる、あいさつも交わされないなど、規律のない状態のクラスでは、子どもは安心できず、居場所がありません。子どもの安全が確保され、安心できる空間であることが不可欠です。あいさつは、お互いを認め合うことで心地よい気持ちを生み出します。清潔で整備された気持ちのいい教室で、規律ある雰囲気があってこそ、生活の意欲が生まれます。

★集団の中で成長していく大切さに気付かせる

「みんなと協力して……できた」「あいさつして気持ちがよかった」「ともに学ぶ楽しさを実感できた」…、これらは集団の中で味わえる大切な感覚です。子どもたちが集団生活の中で自己を高めていくことの大切さを伝えていきましょう

★ルールの大切さに気付かせる

集団生活を送る上で、必要なルールやマナーがあります。そのルールやマナーを守ることは互いの人権の保障につながっていきます。ルールの大切さに子どもたちが気付いていけるように働きかけていきましょう。

みんなのためのルールブック

～「あたりまえだけど、とても大切なこと」～ ロン・クラーク 亀井よし子 訳

1. 大人の質問には礼儀正しく答えよう
2. 相手の目を見て話そう
3. だれかがすばらしいことをしたら拍手しよう
4. 人の意見や考え方を尊重しよう
5. 勝っても自慢しない、負けても怒ったりしない
6. だれかに質問されたら、お返しの質問をしよう
7. 口をふさいで、せきやくしゃみをしよう
8. 何かをもらったら、3秒以内にお礼を言おう
9. もらったプレゼントに文句を言わない
10. 意外な親切でビックリさせよう
11. 人の成績を言いふらさない
12. 授業中は、人が読んでいるところを目で追う
13. 質問には完全な文章で答えよう
14. 自分からご褒美を欲しがってはいけない
15. 宿題は必ず提出しよう
16. 授業の準備はすばやくしよう
17. 整理整頓しよう

18. 宿題に文句を言わない
19. 代わりの先生が来たときも礼儀正しくしよう
20. 授業中は許可なく席を立たない
21. 先生にあいさつしよう
22. お客さまを歓迎しよう
23. だれであれ、仲間はずれにしない
24. しかられている人の方を見ない
25. 宿題がよく分からないときは質問しよう
26. あとかたづけをしよう
27. バスに乗ったら、おとなしく座っていよう
28. 人の名前をしっかりと覚えよう
29. 食べ物を欲張って取らない
30. だれかが何か落としたら、拾ってあげよう
31. だれかとぶつかったら謝ろう
33. 公共の建物に入るときはおしゃべりしない

34. 訪問先では何かを褒めよう
35. 集会ではおしゃべりしない
36. 電話の対応はきちんとしよう
37. お世話になった人にはお礼を言おう
38. エスカレーターに乗ったら、右側（左側）に立とう
39. 全員で廊下を歩く時にはおしゃべりしない
40. 横入りをしてはいけない
41. 映画館では絶対におしゃべりをしない
42. 学校に〇〇を持ってきてはいけない
43. もしいじめられたら先生に知らせよう
44. 信じるもののために立ち上がろう
45. 前向きに生きて、人生を楽しもう
46. したいことがあるなら、やってみよう
47. 違いを受け入れよう
48. いつも正直でいよう
49. 現在を楽しもう
50. 君のなれる、もっと素晴らしい人間になれ

ちがいのちがいカード

先生はイヤリングをしても良いが、生徒はしてはいけない

大人は車を運転しても良いが、子供は運転してはいけない

日本では人々は日本語で話すが、オーストラリアでは人々は英語で話す。

よしこさんは学校まで50分も歩かなくてはいけませんが、ようこさんは学校まで10分歩けば着く。

ナオミさんは好きなのところに自分で行けるが、アサミさんは車椅子が必要で、自分でバスや電車に乗ることが出来ない。

日本の平均寿命は79歳だが、アフガニスタンでは平均寿命は43歳である

構成的グループ・エンカウンターとは

エンカウンター・グループとは、「出会い」という意味であり、情報や知識や物事の善悪ではなく、感情の交流を主とし、自己についての発見や他者の存在や他者との関係を確認し、行動の変容と成長を狙ったグループ体験である

インストラクション

インストラクションがエクササイズの成否を決定するといっても過言ではない。カウンセリングは自由な雰囲気です容度の高い方がよいが、エクササイズの曖昧な説明や指示は、子どもを混乱させる。ずさんなインストラクションは論外だが、「どちらでもよい」と言う指示は、子どもの高度な判断力が必要であることを頭に置いておく必要がある。





エクササイズのねらい

- 1)自己理解
- 2)他者理解
- 3)自己受容
- 4)自己主張
- 5)信頼体験
- 6)感受性の促進

シェアリング

同じエクササイズを体験しても、人それぞれユニークな気づき受け取り方をしている。その気づきや感情を明確化し、他の人と共有する。

『ジョハリの窓』

		自分が	
		知っている 分かっている	知らない 分かっていない
他の人が	知っている	開かれた窓 自分も他の人もよく知っている領域  open self	見えない窓 他の人は知っているが、自分は知らない領域  blind self
	知らない	隠された窓 自分ではよく知っているが、他の人は知らない領域  hidden self	未知の窓 自分も他の人も知らない領域  unknown self

アサーションとは何か？

アサーション

より良い人間関係を築くための、自分も相手も大切にしたい自己表現法

アサーティブ

アサーションが実現されていること

コミュニケーションについて

人間関係において相互理解を促進する行為

1. 自分の気持ちは、表現しなければ相手にはわからない
2. 自分が言いたいことは、相手に伝わるように表現する必要がある
3. 相手が自分の表現をどのように受け取るか、感じるかは相手次第である

攻撃的自己表現 「私はOK、あなたはOKでない」

自分のことだけを考え相手の気持ちを配慮しない自己表現

非主張的自己表現 「あなたはOK、私はOKでない」

自分よりも常に相手を優先し、自分のことを後回しにする自己表現

アサーティブな自己表現 「私はOK、あなたもOK」

自分のことを考えるが、相手の気持ちにも配慮する自己表現

ソーシャルスキルとは「人とうまくかかわっていくための方法」

ソーシャルスキルって何？

<エピソード1> A君が登校して荷物の整理をしていると、B君が登校してきました。A君「おはよう。」B君「ああ、おはよう。」A君「いけない！図工の用意忘れちゃった。どうしよう。B君、よかったら貸してくれる？」B君「いいよ。」A君「ありがとう。」A君はB君に絵の具を借りて、無事に図工の時間を乗り切ることができました。

<エピソード2> C君が登校して荷物の整理をしていると、同じクラスのD君が登校してきました。D君「おはよう。ねえ、図工の用意してきた？」C君「・・・(あつ、図工の用意忘れた)」D君「ちえっ、シカトか。」図工の時間になりました。C君は絵の具を忘れたので授業に参加できません。先生「C君、何をぼーっとしてるの！絵の具の用意をなさい！」道具がなくて困ったC君はD君の筆を勝手に使い始めました。D君「あーっ！C君、僕の筆勝手に使うなよ！返せ！」けんかになってしまいました。C君は先生に叱られ、D君に謝るように言われましたが、謝ることができません。その後、D君は口をきいてくれません。

ピアサポートプログラムとは

人間関係上の摩擦やトラブルに悩み、葛藤や不安を抱えている子供たちに、基礎的な対人関係能力を訓練したり、ストレスを上手くコントロールさせたり、問題を解決する思考訓練を行ったりすることで、生徒指導上の問題を起きにくくするようにしたプログラムである。こうした「予防教育」の考えに立って開発されたものが、「ピア・サポート・プログラム」である。ゲームやロールプレイングを活用した体験的なトレーニングを通して、子供たちの基礎的な社会スキル(技能)を段階的に育て、最終的には子供同士(仲間=peer)が互いに支え合えるような関係を作り出そうとする取り組みである。